

# No. 86

2012年 (平成24年)  
3月1日

発行  
浄土真宗本願寺派  
和歌山教区日高組  
責任者  
鈴木悟峰



罪深くとも  
嘆くじやない  
親に抱かれて  
ナムアミダブツ

妙好人 浅原才市翁



専福寺親鸞聖人750回大遠忌法要

## 阿弥陀経に聞く

更に六方の諸仏が証明される

(イ) 東方

「舍利弗、われいま阿弥陀仏の不可思議の功徳を讃歎するがごとく、東方にまた、阿閼鞞仏・須弥相仏・大須弥仏・須弥光仏・妙音仏、かくのごとくさらの恒河沙数の諸仏ましまして」

阿弥陀経を讀んでいて、仏さまの名前が出てきて後半部が何度繰り返されるかです。「われいま阿弥陀仏の不可思議の功徳を讃歎するがごとく」とあるのは、おシャカ様自身が讃嘆(さんたん)褒め称える(たいた)したように六方の諸仏も、同じように阿弥陀さまを讃嘆しています。六方の仏さまが褒め称えるので、阿弥陀経では六回同じような文があるのです。この六方の仏さまは、六という数字にこだわらず、すべてということ。おシャカ様だけが阿弥陀さまを讃嘆するのでなく、多くの仏さまたちが同じように讃嘆されているのだからと、阿弥陀さまを信じなさいとねんごろに勧められているのです。仏さまの名が出てくる順番は、日本の「東西南北」とは違い、「トン・ナン・シャ・ペー」の順です。

最初が東です。なぜ東が最初かというと東は、太陽が上ってくる方で、物の始めだからです。

東の基準は、おシャカ様が説法されている娑婆を中心とした方角です。続いて東の諸仏のお名前が挙げられています。阿閼鞞仏は不動です。須弥相とは、須弥山のようにそのおすがたが広大です。大須弥とは、この仏さまのお徳が大須弥山王のようであるところから呼ばれたものです。須弥光とは、この仏の光明が勝れているのです。妙音とは、説法の声がすばらしいことを表すお名前です。ほかの仏さまの名も、このようにそれぞれのお徳を讃嘆して呼ばれたものです。恒河沙は、「夏休みの友」に必ず載っている数字の桁数です。十の五十二乗です。しかし、この恒河沙は、ガンジス川の砂ぐらい無数にあるという意味です。(永原)

# 道綽禪師さま

和上方の「正信偈法話」

の中で一番よく分かったのは、お正信偈の中の道綽決聖道難証から、至安養界証妙果までの八句です。

道綽禪師さまは、千四百年前に生まれたお方で、十四才で僧になられました。七高僧の中では、第四祖になります。中国南北朝時代八十四才で亡くなられました。末法の時代です。末法の時代にあつては、仏の教法は、次第におとろえ教えは残っているが、修行をすることもなくなっています。

仏教が政治に利用され圧力を受けた時代にお生まれになりました。道綽禪師さまは、泣いている民衆に目を向け、末法の仏教は、浄土門であるとおすすめにられました。

仏教の教えは、聖道門と

浄土門に分けられますが、聖道門は修行をする聖者で一般的ではありません。自力で助からなければいけません。

それに対して浄土門は、お念仏ひとつで救われていき、易く称えられます。道綽禪師さまの浄土教は、人々に喜ばれました。

聖道教に対して浄土教は、阿弥陀仏の浄土に往生してさとりをひろく教えます。

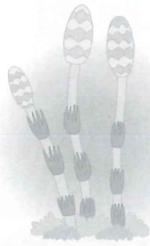
お母さんのお乳は赤ん坊が飲みますが、これは最高の価値があります。母が働いて食べて赤ん坊に与えます。赤ん坊は満足して飲みます。お念仏は仏さまのお乳です。念仏を称えらるとは、お念仏のお徳を頂戴することです。念仏をお母さんのお乳にたとえました。信心と念仏は別ものではありません。如来さまの願力のはたらきで救われて

いくのです。いただいた心が信心で、口にあふれる念仏が信心相續のすがたなのです。道綽章八句の最後に至安養界証妙果とありますが、阿弥陀さまと同じさとりをひろくと言うことです。

道綽禪師さまは、『安樂集』をお書きになり、念仏は最高であると述べられています。

道綽決聖道難証 唯明浄土可通入とは、道綽、聖道の証し難きことを決して、唯浄土の通入すべきことを明かすという意味ですが、私はお正信偈を唱えるたびに和上方のお話を時々思い出します。

(丸山)



## 法悦クイズ

下の【 】内に、漢字4文字を入れて、2009年に制定された新「食事のことば」[食後のことば]を完成させて下さい。

### 新しい「食後のことば」

尊いおめぐみをおいしくいただき、ますます【 】にとめます。おかげで、ごちそうさまでした。

85号の正解は、1、「いのち」 2、「おかげ」でした。正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 由良町 小林 照代 様 | 由良町 新田美佐子 様 |
| 由良町 川口アヤ子 様 | 由良町 寺下 治子 様 |
| 由良町 磯田 公子 様 | 亀岡市 佐々木禮子 様 |
| 由良町 浜崎五十鈴 様 | 亀岡市 佐々木弥生 様 |
| 由良町 中崎工ミコ 様 | 御坊市 塩田 廣一 様 |

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、ご感想、御意見等を明記の上、

〒649-1221 日高郡日高町志賀3851 善宗寺内 組長事務所 までお送り下さい。

※抽選で10名の方に粗品を進呈いたします。

※締め切り日 平成24年5月31日必着

※発表は次号

# 門徒心得

ねんじゅ がっしょう らいはい  
念珠・合掌・礼拝

また念珠を持ったまま手洗などの場所に行かないようにしましょう。



男性用念珠 女性用念珠

## 合掌

合掌は、両手を合わせて親指と他の四指との間に念珠をかけ、指を開かず十指をそろえて伸ばし、親指は軽く念珠を押さえます。

両肘を張らずに両手を胸の前で合わせ、指先と上体を約四十五度に保ちご本尊を仰いでお念仏を称えます。



念珠のもちかた（合掌のとき）

## 礼拝

礼拝する時は、念珠をかけて合掌の姿勢のまま静かに上体を約四十五度前方に傾けてからひと呼吸おいて静かに元の姿勢に戻して合掌をときます。



合掌・礼拝のしかた

(松本)

## 親鸞聖人七百五十回 大遠忌法要 御正當

昨年四月から始められた五十年に一度の大遠忌法要の総まとめとなる御正當が今年一月九日から十六日までお勤めされました。

今回の大遠忌法要では御影堂の内陣のお荘厳も特別なものでした。

新調された前卓の打敷は、大きさが畳約十五畳分で文様は親鸞聖人のご生涯ゆかりの地にちなんだ鶴、松、桜、石楠花、雪割草、菊、



椿が描かれています。

「鶴」はご誕生の日野家の紋

「鶴丸」から

「松」は幼名「松若丸」から

「桜」は出家得度された京都府の花

「石楠花」は修行と学問に励まれた比叡山（滋賀県）の花

「雪割草」は承元の法難に遇われ流罪になられた越後

（新潟県）の草花

「菊」は関東伝道の拠点とされた常陸（茨城県）の名産品

「椿」は晩年を過ごされ、ご往生された京都市の花が用

いられています。

前卓のお飾りは蠟燭立三

対、花瓶 一对、香炉の

「九具足」という最高のお

荘厳が用いられました。

三対の蠟燭は特別に大き

い五〇〇号（高さ四〇cm）

が用いられてきましたが、御正當では三対のうちの中一対が八〇〇号（重さ三kg、高さ五四・五cm、最大直径十四・五cm）という本山で使用される最大の蠟燭でした。

また、お供物は須弥壇の十一具（十一対）に加え、須弥壇の左右に設けられた五段の供物台に十七具の季節のお供物が用いられ、全部で二十八具お供えされました。

今回の大遠忌法要御正當のご満座となる一月十六日の満日中は出勤法中約三百人、参拝者約五千人でお勧めされ、引き続きご門主が御消息「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要御満座を機縁として『新たな始まり』を期する消息」を發布されました。



(松本)

# 日高組寺院めぐり

善宗寺（日高町志賀（柏）第十五代住職 鈴木 悟峰）

寺院に関する詳しい文献は見あたらず詳細は不明である。日高町誌等によれば、和佐手取城主、玉置権守の家臣である伊藤治郎が蓮如聖人の教化を受け自宅を道場とした。その末裔の浄西が当寺を開基したとされている。

開基は寛永年間で寛永一



九年（一六四二）に木仏阿弥陀如来本尊が下附され善宗寺の寺号公称を許された。

私が十五代住職となっているがこれまでに無住の時期や住職代務の時期が度々有ったと思料され正確な世代も不明である。

祖父は鹿兒島県出身で、一時は「雑賀孫一」ゆかりの寺院、蓮乗寺に入寺し鈴木姓を名乗るが、明治三十八年に当寺に移住した。

現況の建物（本堂）は天明三年（一七八三）に建立され、明治一八年と昭和五十年に屋根替え等の修復を行っている。

当地は年々高齢化、過疎化が進み、今後は寺院の護持が問題となるだろうがご先祖から引き継いだお寺を少ない門信徒とともに継承していきたい。

## ご勝縁に会う

親鸞聖人を偲び、御恩に報いる聖人七五〇回大遠忌法要が平成二十三年十一月二十六日、日高組専福寺で勤修された。

ご講師に「歌う尼さん」として各地で寺院コンサートを行う奈良教区教恩寺住職梁瀬奈々師を迎えた。

師の歌詞は、僧侶の視点からいのちに向き合ったものとなっている。生きること・死ぬこと

へのあたたかなまなざしと包容力にあふれた楽曲は、大人のための癒しの音楽として心に響いた。

ご法要には当寺のご門徒や近隣の方々が多くお参りされ共に親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ有難いご縁でありました。

この法要を機縁に専福寺の益々のご発展を念じあげます。（鈴木）

た蓮専寺ご門徒各位に御礼を申し上げます。

## 日高組通信

### ☆行事報告

#### ・日高組「真宗法座」

日高組第十七回「真宗法座」が昨年十二月十八日、由良町里の蓮専寺において組内各寺院のご門徒約七十名が参加し開催された。

この度の講師は大阪教区大阪西組覚円寺住職、豊島学由本願寺派布教使で「人間の願い如来の願い——親鸞一人がためなりけり——」の講題でご聴聞させていただいた。会場の準備、お世話を頂い

た蓮専寺ご門徒各位に御礼を申し上げます。

#### ・総代会「後期研修会」

平成二十三年度日高組後期研修会が一月二十八日に蓮専寺に於いて各寺院の総代四十五名が参加し開催された。

ご講師に和歌山教区紀南組組長（善福寺前住職）の藤俊乗師をお招きし「讃仏偈を学ぶ」と題して、解説を交えながらのご法話を聴聞させていただきました。

「讃仏偈」は平素よく拝読するお経ですが、この度の研修で内容がよく理解できたという声がかかれ有意義な研修会

となりました。

### ☆行事予定

#### ・日高組「定期組会」

三月三十一日（土）由良町衣奈、信行寺に於いて開催します。

組会に先がけ、寺族・門徒総代（責任役員含）の物故者追悼法要を行います。

その後、平成二十三年度の事業報告、決算報告、次年度の事業・予算・役員改選等について審議・承認をお願いします。

各寺院の組会議員の皆様には出席下さいますようお願い致します。

